# 母

アダ・ネグリ　Ada Negri

上田敏訳

青空文庫

わが生の奥深く、微かなる聲のわれを呼ぶを感ず。
當來の命よ、眠れるわれを覺さむとして來るは汝か。

嗚呼、命、新らしき命……わが内臓はとどろきぬ、
岸破と跳りぬ。そはなれが呻吟の聲か接吻か。

なれこそは未知なれ。あるは恐る、悲に絶望に捧げむと、
わが血もてなれを養ひ、わが心もてなが心を形造るを。

しかすがに此の手を延べて、靜かなる慰撫の手振優しく、
命に醉ひしわれは笑ふ、力の夢、美の夢おもひ。

我汝を愛す、我汝を招ぐ、嗚呼、わが兒、善惡の名によりて。
そは永久の聖なる自然、汝を此世に呼びたればなり。

是時われ思ふ、大衆の女人を、恐ろしき刻の近づくままに、
誰もひとしき巖の念、胎を溢れて心に滿つるを……

女人大衆は其眼に神祕の喜悦あり、戰慄あり。
この神祕ありて、其胎は肉と心との新らしき生を迎ふ。

愛の花瓶よ、諸の男子の上に、諸の冷たき學術の上に、
無心の勢力萬物の種は、祭壇に捧ぐる如く、汝を奉ぜむ。

種は聖なり。これ凡なり、力なり、光なり、愛なり。
胎こそは讃むべきかな、惱みてこれを養ふ。

＊

あはれ、眼は大空の閑かなる影を映して、
襁褓を縫ひ、面※を縫ふ白妙の手によりて、

あはれ、其日待つ當來の命の呼吸、眼に見えぬ深き處に
ひよめき、うごめく胎兒の蠢動によりて、

鮮血は泉と迸り、母の全身色失する
一期の悲鳴によりて、最後の苦惱によりて、

薔薇色の裸形の兒――哀いかな――或は惱の床に
又或は死の床に生れ落つる幼兒の名によりて告ぐ。

地上の男子よく聞き給へ――何事ぞ互に劍磨ぎ給ふは――
よく聞き給へ、聞き給へ、人は皆同胞なり。

眞にわれ汝等に告ぐ――嗚咽なりや、忘れやしつる――
われら皆裸にて生れ、母の胎を裂きて生る。

眞にわれ汝等に告ぐ、哀願の腕かくの如く延べたり。
汝等を生まむとして開きたる母の胎を辱しむる勿れ。

相和ぎて樂みて、自他の別無き畝に種子撒け、
強き女子等は搖籃の傍に歌ひて微笑まむ。

照日の畠の收穫に、歡喜の野の麥苅に、
母なる自然の前に額き、平和の感謝捧げなむ。

# 青空文庫情報

底本：「上田敏全訳詩集」岩波文庫、岩波書店
　1962（昭和37）年12月16日第1刷発行
　2010（平成22）年4月21日第38刷改版発行
初出：「スバル　創刊号」
　1909（明治42）年1月
入力：川山隆
校正：成宮佐知子
2012年11月3日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 母

アダ・ネグリ　Ada Negri

2026年10月1日　第二版

## 奥　付

発行　　青空文庫

著者　　上田敏訳
URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/